

藤高和輝

『ジュディス・バトラー ：生と哲学を賭けた闘い』

合評会

2019年3月29日(金)

18:00-20:00

北星学園大学C館2F
第5会議室

(札幌市厚別区大谷地西2丁目3-1)

参加費無料・申し込み不要

問い合わせ

miyazakio@nayoro.ac.jp
宮崎 理 (名寄市立大学)

ジュディス・バトラーは、「セックスはジェンダーである」という言葉とともに、『ジェンダー・トラブル』の著者としてよく知られた哲学者である。

しかし、彼女の研究はより広範な政治や権力の問題におよぶものである。それらは、社会構造的なあるいはトランスナショナルな問題の解決が迫られている今日、ソーシャルワーク研究・社会福祉学研究に対しても大きな示唆を与えるものである。日本国外では、反差別・反抑圧ソーシャルワークに関する研究などにおいて、バトラーの思想を手がかりとした議論が散見される。

本研究会では、『ジュディス・バトラー：生と哲学を賭けた闘い』を著し

た新進気鋭の論者である藤高和輝先生お招きし、合評会として、同書の紹介をいただき、参加者とディスカッションする機会を設けたい。

同書は、フェミニズム理論やゲイ&レズビアン・スタディーズ、社会学、人類学、精神分析など多様な学問分野を横断してきたジュディス・バトラーの難解とされるテクストを、「生」と「哲学」の問題を軸に、共にとり乱しながら思考すること」への呼びかけて、精緻に読み解いたものである。

本研究会が、ソーシャルワーク研究・社会福祉学研究に新たな知見をもたらすとともに、分野横断的な研究活動を促す機会となることを期待する。

『ジュディス・バトラー：生と哲学を賭けた闘い』 (2018, 以文社)

藤高 和輝 (ふじたか かづき)：大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。現在、日本学術振興会特別研究員。論文：「とり乱しを引き受けること：男性アイデンティティとトランスジェンダー・アイデンティティのあいだ」 (『現代思想』2019 vol. 47-2) など。

※ 藤高先生による自著紹介がありますが、可能な限り本書をお読みのうえ、ご持参いただけますと幸いです。